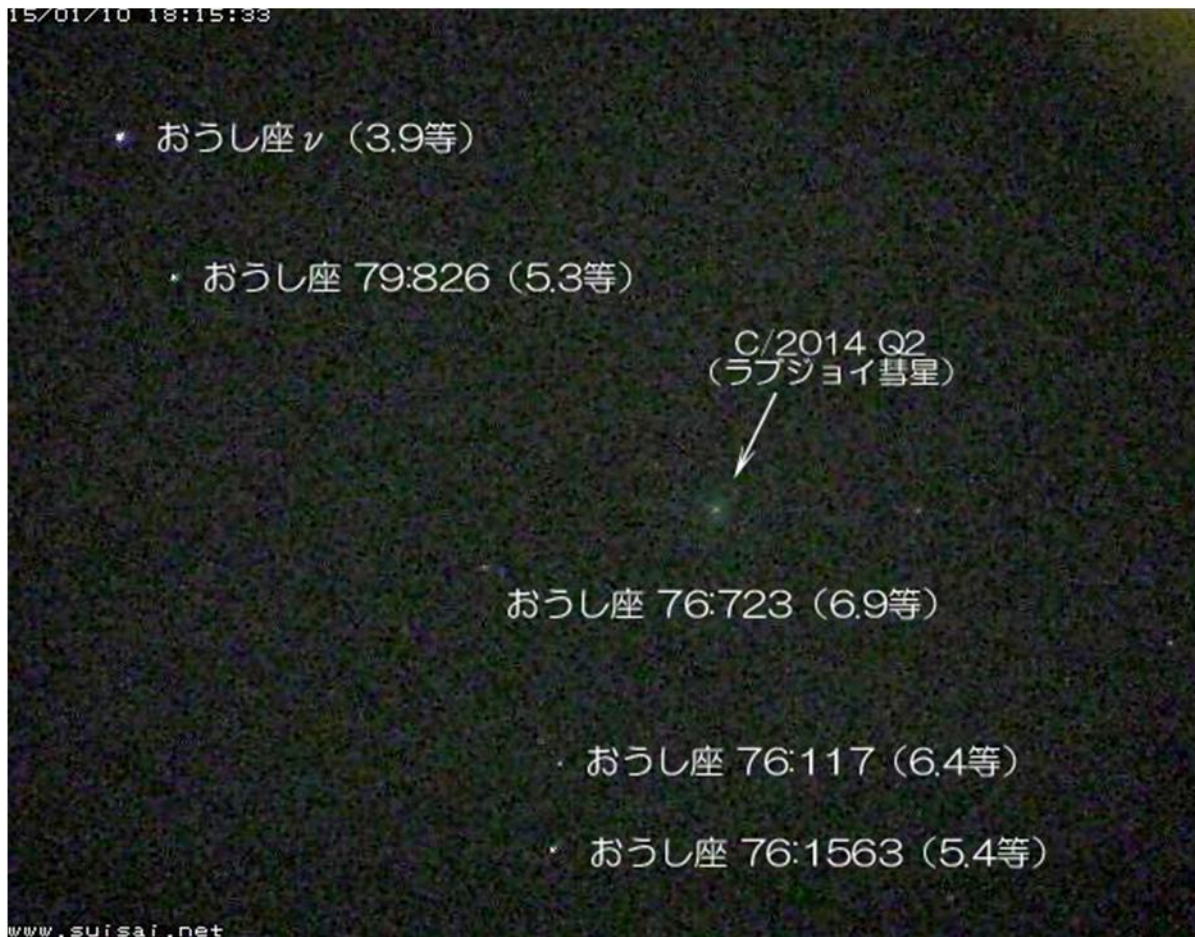


「ラブジョイ彗星を撮る (1)」

彗星の撮影は、いろいろな意味で時間との勝負です。彗星が明るく見えているのは、太陽に近づいていて、しかも地球にも近いという、非常にわずかな日数だけです。肉眼で見える期間は、ほんの数日という彗星もあります。もう一つは、太陽に近づくと、日没直後にしか撮影できないことです。どちらも、彗星ハンターにとっては、頭の痛い問題です。

幸い、今回のラブジョイ彗星は、太陽系の平均軌道面からの傾斜角度が大きい軌道なので、ほぼ一晩中観測が可能です。肉眼ではやっと見える明るさですが、こういう彗星は珍しく、観測はしやすいと言えるでしょう。私はまず、埼玉県小川町に設置した観測用のカメラを、東京から遠隔操作して撮影してみました。



これは近日点に近い 1 月 8 日の画像で、ラブジョイ彗星はおうし座の足もとに位置しています。彗星独特の、緑色のぼやけた光芒が写っています。このカメラは、もともと天体写真用ではなく防犯用・監視用です。CCD も高感度ではなく、低速シャッターも切れません。感度もこの程度が限界で、彗星の最大の特徴である尾も写りませんでした。しかし、周囲の恒星を同定すると、7 等級の星まで写っていることがわかりました。つまり肉眼では見えない星まで写せる性能ということです。天球上の彗星の動きを定点観測するには、非常に適していると確信しました。

(お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋)